

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東中学校	校長	田浦 由紀夫	生徒指導主事	中次 伸彦
-----	-------------	----	--------	--------	-------

取組事例名 『生命尊重～いじめ撲滅に向けて～』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
コミュニケーション能力	2	課題発見・解決力	1	自己理解	3

取組のねらい

自他の生命を尊重する心を育むとともに、いじめのない学校、安心して生活のできる学校を目指して、一人一人ができることを考え、やるべきことを自覚し、実生活につなげる。また、一人一人がかけがえのない存在であることを理解し、仲間と協力して考えることで、いじめ撲滅を目指す。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『つなげる』
----------	-------------------

◇「命の大切さについて考える日」の集会
命の大切さについて学び、嫌な思いや辛い思いをする生徒がいじめのない学校、いじめのない学校、落ち着いた生活のできる学校にするための意識を高める機会とした。生徒会による「いじめ撲滅宣言」や助産師を招き、「いのちの話」の講演を行った。

◇「平和」について考える生徒集会
広島の中学生として被爆地「ヒロシマ」の歴史から、命の尊さ、「生きる」ということ、お互いの違いや異なる意見を認め合うことについて考える機会とした。生徒会による「平和メッセージ」や被爆体験伝承者の講話を行った。

◇「いじめ防止」について考える集会
集会を通して、考え、気づき、決意したことを日常生活の中で活かすことができるよう取り組んだ。また、生徒全員が「一歩踏み出す勇氣」を持って行動していくための機会とした。教員によるロールプレイから、どのような考えや言動が望ましいかをグループで考え、発表した。

今年度は、単発的な取組にならないよう、集会の前後に道徳の時間（内容項目D-(19)「生命の尊さ」を取り扱った内容）や学活（クラススローガンに対する自分の振り返り）を組み込むことで、より内容を深化させるとともに、生徒が日常生活へつなげられるよう工夫した。

また、自らの行動を振り返るだけでなく、グループで望ましい考えや言動を話し合うことで、価値の補充・深化・統合を図った。

扱いとしては学校行事となるが、企画・運営は生徒会が主体となって行い、より効果的な内容になるよう取り組んだ。



取組の成果と課題

今年度の暴力行為発生件数は1件（昨年度3件）、いじめ認知件数は8件（昨年度11件）であり、ともに減少した。特にいじめ認知においては、第2段階のいじめは発生しておらず、昨年度の2件から0件に減少した。また、学校生活・いじめアンケートにおいて、「学校が楽しい」と回答をした生徒が91%、「現在いじめを受けている」と回答した生徒は1%であった。少数ではあるが、人間関係等で悩んでいる生徒をどう支援していくかが課題となる。